



# 2017年3月期 第1四半期（2016年4月～6月） 決算説明資料



株式会社MCJ  
2016年8月4日



# MCJグループとして目指す姿 中長期ビジョン

□ 製品力とIT感度の高い顧客層という二つの強みを今後も活かし、両辺の価値の最大化を図る

➢ デバイスというITライフの“入り口”に事業領域を限定せず、成長を追及

## MCJグループとして目指す姿

### 製品力

“PC関連に限らず、使って楽しい、役に立つ、目新しい、広義のITデバイス製品のタイムリーな開発・仕入・販売を通じて、総合ITデバイス企業を目指す”

### MCJ

相乗効果による  
最大化

### IT感度の高い顧客層

“入り口たるITデバイスを使う人に、ソフトウェア、セキュリティ、コンテンツ等の分野で利便性、楽しさ、安全性を提供。“入り口×その先”の融合を図る”

PCに  
限定し  
ない

### ITライフへの“入り口”の更なる強化

実現の為に強化すべきこと

### “入り口の先”の広がり強化

製品販  
売だけ  
を脱却

- 総合的なITデバイス（PC、VR、AR、ドローン、ウェアラブル等）の最新情報リサーチ力の強化
  - 例：ものづくりベンチャー企業投資プラットフォーム構想（本資料P5参照）
- 開発力、技術力、製造力、サポート力の強化
- 製品ブランドの強化
- マルチデバイスで顧客層を拡充

- デバイスを買う“目的”等の“その先”部分をおさえ、製品販売以外の収益源の確保
  - 例：ストック型ビジネス強化。ITデバイスを使用して行うサービス分野への進出
- デバイス×サービスで顧客接点・提供価値強化
- 新規顧客層の開拓と顧客リテンションの強化
- マルチサービスで顧客接点を多様化

相乗効果

# 重要視する事業上の経営管理指標

## ◆ 開示ポリシー： これら指標の進捗状況については、中間及び通期決算発表時にご報告いたします

□ 以下のKPIを最重要KPIとし、安定的に以下の値を達成する事を目標とする

重要視するKPI	目標数値及び設定の趣旨		
	前期実績	計画上目標値	KPI設定の趣旨及び背景
<b>営業利益率</b> <営業利益/売上高>	5.0%	<b>5%程度</b>	》 本業注力路線を進める方針、及び事業ドメイン的に利益率・コストの管理が至上命題であると認識し、重要指標とする 》 単なる規模追求をせず、利益を伴う成長、本業とのシナジーが見込める分野でのM&Aを実施
<b>ROIC</b> <NOPAT <sup>*1</sup> /事業性投下資>	11.6%	<b>10%以上</b>	》 当社の事業領域および今後の方向性、複数の異なる事業ポートフォリオを管理する事を鑑みると、投下資本リターンを念頭に既存事業運営及び今後のM&Aを実行する事が重要と考え重要指標とする 》 各事業責任者にとっての行動指針として明確
<b>ROE</b> <当期純利益/株主資本 <sup>*2</sup> >	13.0%	<b>10%以上</b>	》 上記ROIC共々資本効率を意識した経営を行い、下記配当を充実させ株主にとっての高リターン企業を目指すべく重要指標とする 》 収益性向上、総資産回転率向上というROICと同様のメニューでもってROE向上を図る
<b>配当性向</b> <配当総額/当期純利益>	20.5%	<b>20%以上</b>	》 将来への成長投資及び環境変化に対応するためのエクティークッションとのバランスの中で株主還元を強化する方向であると共に、TSR <sup>*3</sup> 向上を目指し重要指標とする

\*1) 税引き後営業利益＝営業利益×(1－実効税率)

\*2) 期中平均 \*3) Total Shareholder Return

# 主要各社の戦略的方向性

	主要な方向性	内容
マウス	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製品開発、広告積極化による認知度向上</li> <li>✓ より効率的な営業を追及</li> <li>✓ オペレーション基盤の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 新製品開発によるビジネス機会の拡大と広告による認知度向上によるマウスブランドの拡大と基盤強化</li> <li>» 商社、EC系販売店等とのリレーション強化による販売力強化</li> <li>» 基幹システム、サポート体制強化、人材開発等の成長投資</li> </ul>
ユニットコム	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ サポート、リユースビジネスの拡大</li> <li>✓ 販売チャネルミックス適正化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» PC等の製品販売を軸に、修理サポート、設定等のサービスビジネスの拡大、中古取り扱い等の周辺サービスを継続強化</li> <li>» 店舗体制の見直しを継続</li> <li>» Web、法人販売の強化</li> </ul>
テックウインド	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 取扱製品の拡充</li> <li>✓ 法人向けソリューションビジネスの拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 新カテゴリを含めた新製品開拓による需要喚起</li> <li>» 法人向けビジネスの拡大</li> <li>» サーバー・ストレージビジネスへの更なる注力</li> </ul>
iiyama	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 既存製品に加え新製品開発による需要開拓</li> <li>✓ 販売強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 既存産業用タッチパネルモニタ等に加え、付加価値のある新製品の投入を図る</li> <li>» 販売機会ロスの低減と地理的な拡大</li> </ul>
アプレシオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 機動的な店舗政策</li> <li>✓ 立地に合わせた設備・サービスの拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 立地や条件に応じて新規出店の一方、閉店判断も迅速に行う</li> <li>» 既存の強い店舗を更に強くするべく、人気設備やサービスの入れ替え、導入、店舗投資をピンポイントで実施</li> </ul>

# 2017年3月期 第1四半期 連結損益計算書

前期における店舗大量撤退の影響を吸収し、広告宣伝効果により増収を達成  
高利益率製品の好調により、利益率増大

(百万円)

	2016年3月期 第1四半期		2017年3月期 第1四半期		前年同期比 増減	
	金額	売上対比	金額	売上対比	金額	率
売上高	24,544	100.0%	<b>25,109</b>	100.0%	565	+ 2.3%
売上原価	19,615	79.9%	<b>19,040</b>	75.8%	△ 575	- 2.9%
売上総利益	4,928	20.1%	<b>6,068</b>	24.2%	1,140	+ 23.1%
販売費 及び一般管理費	3,778	15.4%	<b>3,984</b>	15.9%	206	+ 5.5%
営業利益	1,150	4.7%	<b>2,084</b>	8.3%	934	+ 81.2%
経常利益	1,158	4.7%	<b>2,111</b>	8.4%	952	+ 82.2%
税金等調整前 当期純利益	1,160	4.7%	<b>2,140</b>	8.5%	980	+ 84.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	768	3.1%	<b>1,533</b>	6.1%	765	+ 99.6%

# 2017年3月期 中間業績計画に対する達成率

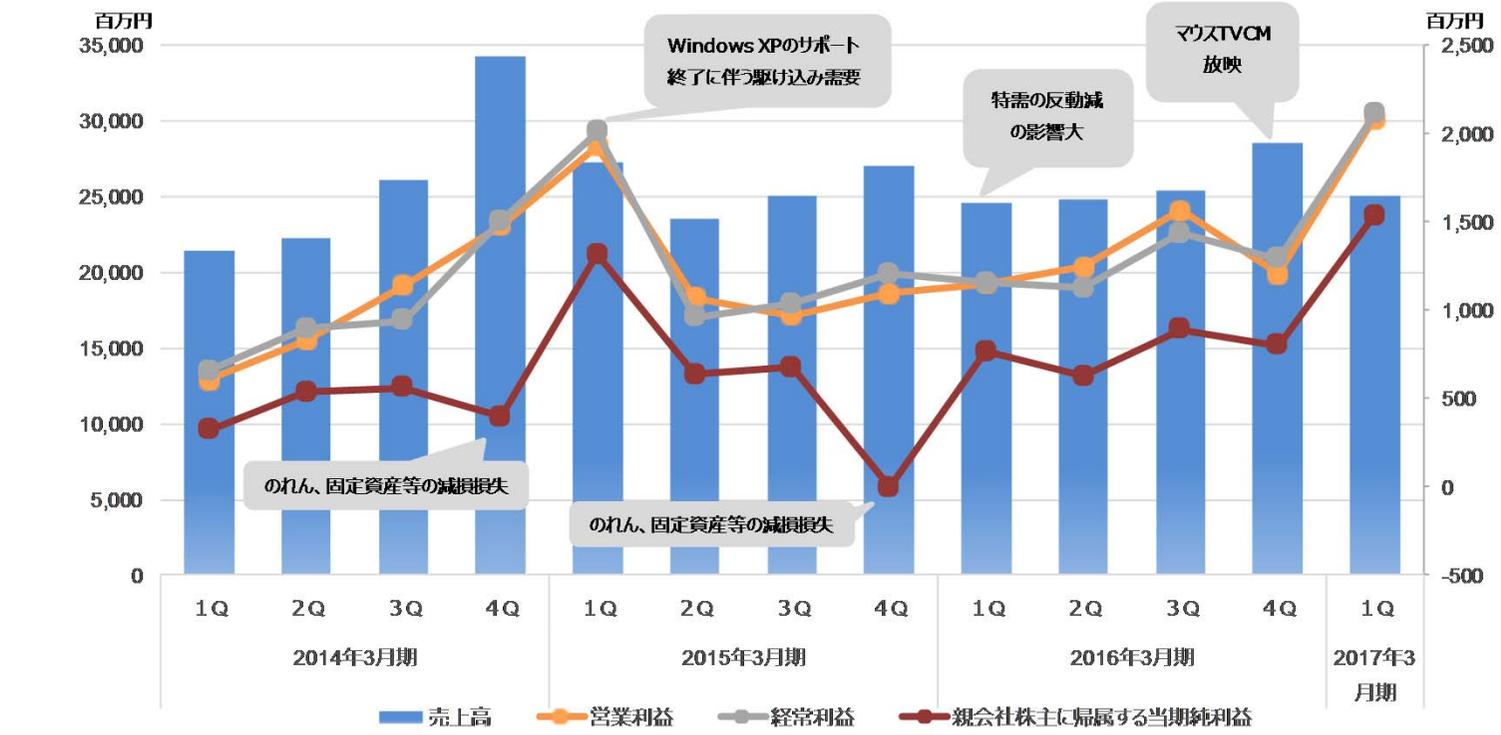
高利益製品への注力により、利益面で順調な進捗状況

(百万円)

	第2四半期計画に対する進捗状況		
	2017年3月期 第1四半期 実績	2017年3月期 第2四半期 累計計画	達成率
売上高	<b>25,109</b>	51,802	48.5%
営業利益	<b>2,084</b>	2,476	84.2%
経常利益	<b>2,111</b>	2,534	83.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	<b>1,533</b>	1,797	85.3%

# 四半期連結業績推移

## パソコン、モニタともにハイエンド製品が利益貢献



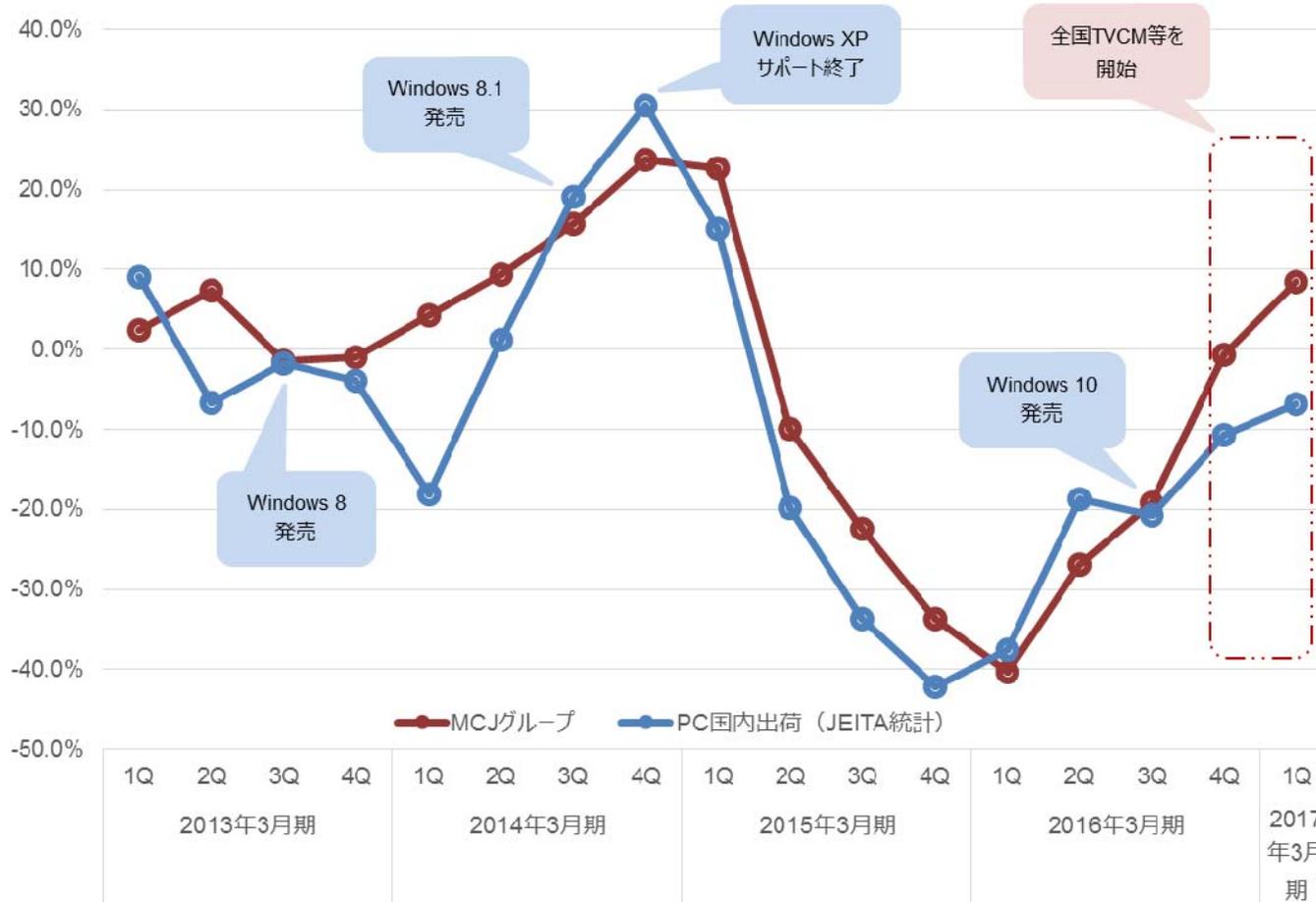
	2014年3月期				2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	21,388	22,313	26,061	34,240	27,301	23,501	25,062	27,024	24,544	24,766	25,429	28,547	25,109
営業利益	608	830	1,140	1,481	1,931	1,071	969	1,095	1,150	1,245	1,567	1,204	2,084
経常利益	658	897	943	1,506	2,012	962	1,034	1,207	1,158	1,127	1,435	1,292	2,111
親会社株主に帰属する当期純利益	319	537	561	394	1,316	636	678	-4	768	625	893	800	1,533

Windows XPサポート終了に伴う特需

# パソコン出荷台数増減率の推移



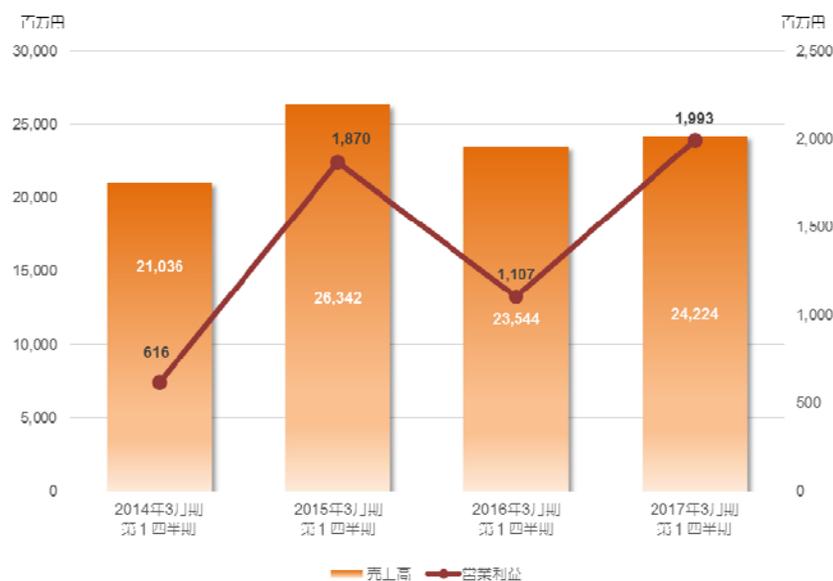
広告効果もあり当社グループは前年比で大幅に増加  
国内市場全体は前年比でマイナスであるものの回復基調



※上記グラフは、四半期（会計期間）ごとの出荷実績を比較したものです。

# セグメント情報 【パソコン関連事業】

前期の店舗撤退の影響で売上は前期比微増も、高利益率製品・サービスへの注力により利益は大幅増



- マウスコンピューター
  - ・テレビCM等、前期の広告宣伝効果が継続し、出荷台数大幅増
  - ・ハイエンドPC等、高利益率製品の好調により、営業利益が大幅に伸長
- ユニットコム
  - ・前期不採算店舗の撤退により売上高減少
  - ・注力している高利益率のサポート関連事業が好調
- iiyama
  - ・産業用タッチパネルモニタ、デジタルサイネージ製品販売が安定的に利益貢献
  - ・マーケティング活動強化
- テックウインド
  - ・法人顧客取引が順調
  - ・新商材取り扱い好調



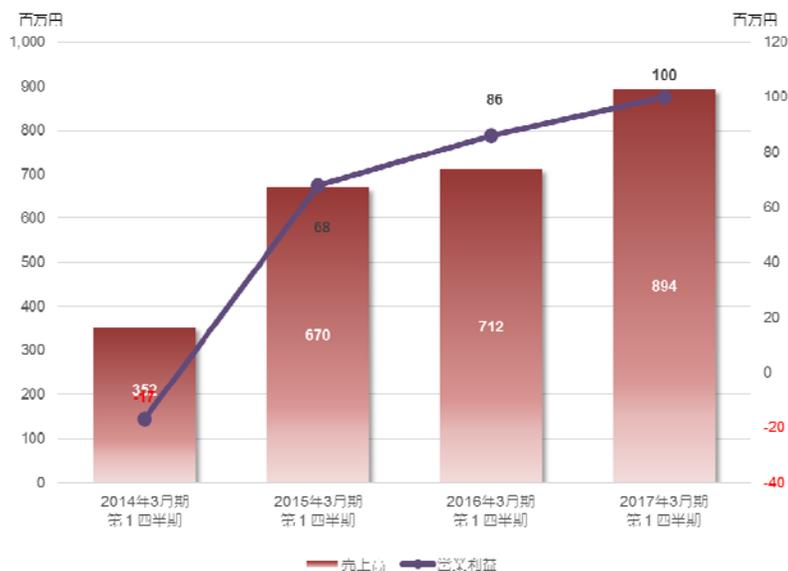
(百万円)

パソコン関連事業	2016年3月期 第1四半期		2017年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	23,544	95.9%	24,224	96.5%	679	2.9%
営業利益	1,107	96.3%	1,977	94.9%	869	78.5%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「グループ連結」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「グループ連結」数値を基に算出しております。

# セグメント情報 【総合エンターテインメント事業】

## 新規店舗を中心に総じて順調



- 複合カフェ「aprecio」の運営
  - ・前期期中にて事業譲受した店舗の収益改善が進捗
  - ・新規業態店舗の好調
  - ・FCによる新規出店1店



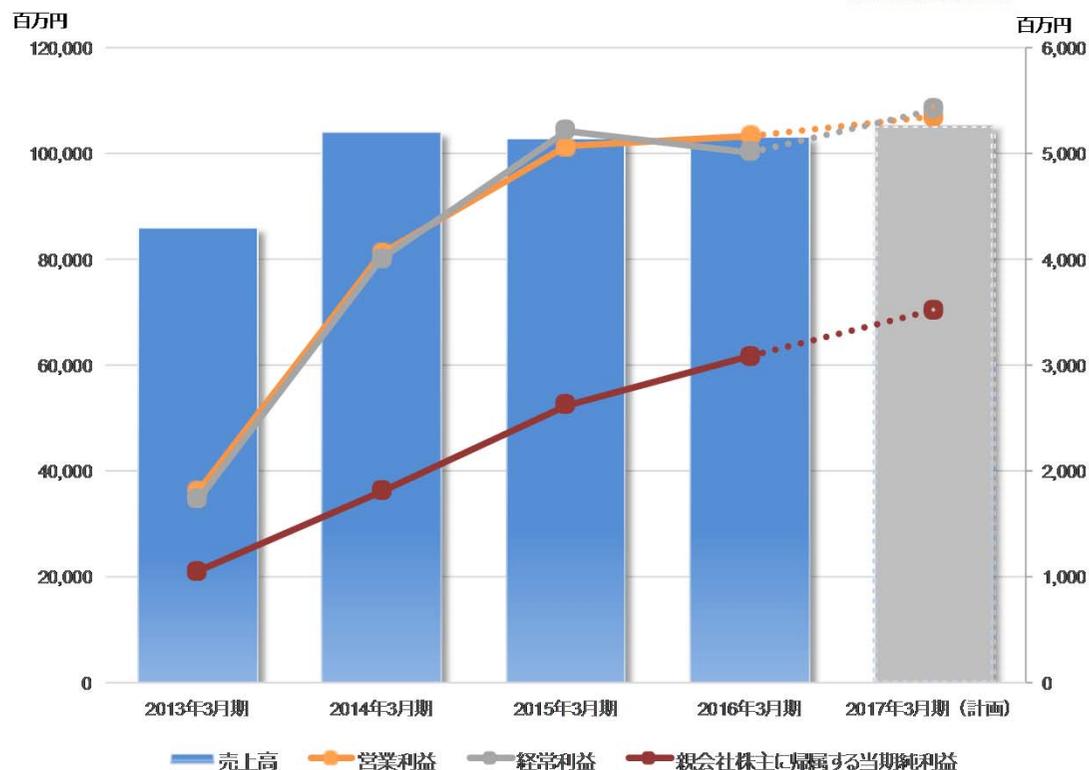
総合エンターテインメント事業	2016年3月期 第1四半期		2017年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	712	2.9%	894	3.6%	182	25.6%
営業利益	86	7.5%	100	4.8%	13	15.8%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「グループ連結」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「グループ連結」数値を基に算出しております。

# 2017年3月期 連結業績計画

積極的な新製品・サービスへの参入やブランド認知向上のためのマーケティング策で足元を固め、  
将来の成長へ向けてM&A、VB投資や事業提携等を加速させる

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期 (計画)
売上高	85,866	104,003	102,889	103,288	105,288
営業利益	1,808	4,061	5,068	5,167	5,353
経常利益	1,737	4,005	5,217	5,014	5,424
親会社株主に帰属する当期純利益	1,054	1,812	2,627	3,087	3,523



# 2017年3月期 連結業績計画



## 2017年3月期 第2四半期累計および通期業績計画

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
第2四半期 累計計画	51,802	2,476	2,534	1,797
売上高比率	-	4.8%	4.9%	3.5%
対前年同期 増減率	5.1%	3.4%	10.9%	29.0%
通期計画	105,288	5,353	5,424	3,523
売上高比率	-	5.1%	5.2%	3.3%
対前年 増減率	1.9%	3.6%	8.2%	14.1%

# Appendix



商号 : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)

設立 : 1998年8月

代表者 : 代表取締役社長兼会長 高島 勇二

資本金 : 3,849,104,600円

従業員数 (連結) : 1,125名 (2016年6月末)

発行済株式数 : 50,862,300株

証券コード : 6670 (東京証券取引所第2部上場)

# グループ概要



■ PC本体、PCパーツ、モニター、PC周辺機器等の製造・販売 (11社)



■ 複合カフェ「aprecio (アプレシオ)」の運営 (1社)

# 免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与える主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

## < IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ  
法務・IR部 広報IR担当

TEL : 03-6739-3991  
HP : [www.mcj.jp/](http://www.mcj.jp/)

**MCJ**  
HOLDING COMPANY